

入居者のご案内

有限責任組合 アンカーアセットマネジメント研究会

- 代表者 常川 善弘(株式会社相愛) 青砥 澄夫(川崎地質株式会社)
 後藤 祐二(日本地研株式会社) 工藤 康雅(北海道土質コンサルタント株式会社)
 酒井 俊典(三重大学大学院生物資源学研究科)

●●● Room No.322

TEL : 059-231-5481

FAX : 059-231-5481

E-mail : 研究会事務局 ichimi@bio.mie-u.ac.jp

斜面崩壊や地すべりといった土砂災害を未然に防ぐため、斜面安定対策工法として広く使用されているグラウンドアンカー工の維持管理に関する調査・提案および研究開発を行っています。

(社)全国地質調査業協会連合会に所属する4社と三重大学大学院生物資源学研究科 酒井俊典教授にて研究会を設立し、アンカーのり面の効果的な保全手法の研究開発と平行して、現状調査について、会員を増やしながら全国的な事業展開を行っています。

●●● 事業内容

SAAM(サーム)システム

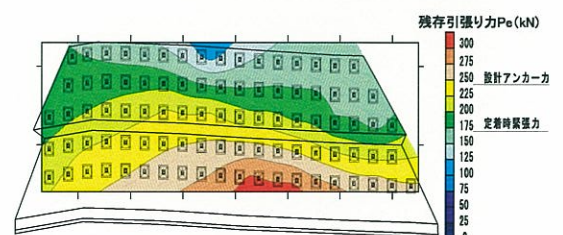
開発した小型軽量のSAAMジャッキ(特許取得)を用いてリフトオフ試験を平面的に実施(面的調査)し、のり面の健全度評価に有用な残存引張り力の分布図を求めることができます。この残存引張り力の分布図より得られる情報から安定性の評価をし、データベースを構築していくシステムです。



SAAMジャッキを用いた調査状況

既設グラウンドアンカーの残存引張り力分布図

SAAMジャッキを用いることにより、これまで明らかにされてこなかった平面的な緊張力分布状態の把握が可能となりました。面的調査により、既設アンカーの残存引張り力の分布状態は様々な状態に変化しており、現状の緊張力の把握以外に、対象斜面の地質特性や安定性の評価に関わる有用な情報を多く得ることができます。



グラウンドアンカー工の残存引張り力分布図